

「子どものいのちを守る」学校安全指導者研修会

山形県教育委員会

〒990-8570 山形県山形市松波2-8-1 Tel (023)630-2892

I 学校の規模及び地域環境

	公立学校等数	児童生徒数	教職員数
小学校	361校	69,027名	4,786名
中学校	131校	37,420名	2,763名
高校	59校	28,071名	2,352名
特殊学校	10校	546名	759名

II 取組のポイント

- 1 「山形県のいのちを守る学校安全プロジェクト」の一環として、本研修会を実施している。
- 2 参加校数、参加者数が増加するように県内4ヶ所で実施するとともに、地域に応じた取組を行う。
- 3 講義だけにならないように、実技や実習を多く取り入れる。
- 4 学校や地域をあげての取組の推進となるようPTA関係者、警察・防犯関係者も受講対象として呼びかける。

III 取組の概要

1 研修会のねらい

学校に不審者が侵入し多数の死傷者を出す事件や登下校中に連れ去られる事件が発生している。このような状況に鑑み、児童生徒に対して防犯に関する心構えや訓練等を実施する防犯教室等や、学校の安全管理、登下校時の安全確保等の考え方、進め方に関する研究協議を行い、各学校での児童生徒の犯罪被害を防止する取組の推進を図る。

2 研修会の内容、計画、方法等

基本的な内容は、4ヶ所とも講義、実践発表、実技・演習とし、実技・演習については、各地域の実情に応じて内容を構成した。実施時期に

ついては、日没が早くなる前の9月上旬、県内4ヶ所で実施した。以下(1)～(5)はある一つの地区の例である。

(1) 講義1

テーマ「学校、家庭及び地域の連携による子どもの犯罪被害の防止」と題して、県教育委員会学校安全担当者が、次のような内容で講義を行った。

ア 学校安全教育の充実の必要性

(ア)「学校安全の充実」の社会的背景

(イ)県内の「声かけ事案の状況」

イ 県内における学校の安全管理の取組状況

(ア)山形県第5次教育振興計画から

(イ)学校安全マニュアル(不審者対応編)

(ウ)子どものいのちを守る学校安全の手引(通学路の安全確保)

(エ)地域ぐるみの学校安全体制整備について

ウ まとめ

(2) 講義2

テーマ「学校における児童生徒の安全確保」と題して、教育事務所青少年指導専門員が、全国的な犯罪状況と管内の状況を中心に講義を行った。

(3) 実践発表

テーマ「子どものいのちを守る学校安全の推進－犯罪被害防止の取組について－」、平成16年度「地域ぐるみの学校安全推進モデル事業」の研究指定校となった村山市立西郷小学校が実践発表を行った。

(4) 講義・実技

テーマ「教室への不審者侵入時の職員対応」と「声かけ・連れ去り対応」と題して、警察署生活安全課上席少年補導専門官が講義を行い、引き続き、教職員の安全能力向上を図る実技「授業時の不審者侵入対応訓練」と、子どもの安全対応能力を図るための取組「下校時の不審者対応訓練」を実施した。



(5) 研究協議

5 - 7人のグループに別れ、次のようなテーマで研究協議・情報交換をした。

ア 校内の安全について

不審者対応訓練、日常の指導、校内の安全組織など

イ 校外の安全について

「見守り隊」等地域家庭との連携、子ども110番連絡所、学区内危険箇所マップなど



3 実践の成果

(1) 受講者の内訳は、警察官・OB 7名、教職員 294名、保護者34名、防犯協会 4名、教育委員会関係者34名、計373名。また、校種別では、小学校237名、中学校61名、高等学校26名、特殊学校 8名、その他41名、計373名。

(2) 研修会後のアンケートより次のような御意見をいただいた。(抜粋)

ア 講義、実践発表、実技、研究協議など様々な内容があり、現場での実践に生かせるものが多かった。

イ 普段、忙しさの中で危機管理や対応について忘れかけていたことを再確認することができた。学校に配られたマニュアルを読むより

も、実際の事例を聞いて実践発表や活動をすることで、危機管理意識の高揚につながった。

ウ 実技では細かい点まで具体的に助言いただき、わかりやすかった。

エ 教職員や子供たちの不審者対応訓練を、具体的にどう進めていいか迷っていたので良かった。

(3) この地域は、大きく分けて2つの地域に分けられるが、2つの警察署の担当者も講師として参加してもらうなど、全面的な協力を得ることができた。

4 課題等

(1) 午後の講義・実技が延びてしまい、研究協議の時間が十分に取れなくなってしまった。

(2) 学校からは、代表としての参加であったが、より多くの教職員の参加が出来ればという意見もあった。

(3) 実践発表で行っているようなステッカーやのぼりは、大変有効なのはわかったが、そのための予算確保が課題という意見もあった。

(4) 各担任レベルで、すぐに行えるような防犯訓練の指導案なども取り上げてほしいという意見もあった。

5 まとめ

山形県の学校は、塀や門がないところが多い。また、児童生徒の通学路でも、田畑や森林に囲まれた地域も多くあり、地域の実情に応じた安全管理体制がのぞまれる。山形県においては、最新の施設や器具などの充実とともに、子ども自身が様々な危険を予測し、それを回避できるようにするための防犯教育の一層の充実と、地域ぐるみで子どもの安全を見守る取組の推進を図る必要がある。学校の安全管理に関する現状は、多くの課題があるが、各学校・地域に定着するように関係機関と協力しながら今後とも推進していきたい。

授業時の不審者侵入対応避難訓練実施計画

1日 時 平成17年9月13日(火) 13:00~13:40 (行事1)

2場 所 ○○総合支庁4階講堂内を1年1組教室、1年2組教室と見立てて

3ねらい 教師(役): 授業時に不審者が侵入した際の対応の仕方を、実際に動きながら確認する。
児童(役): 不審者が侵入時に教師の指示に従って危険を回避する。

4想 定 授業中に、児童昇降口から不審な人物が刃物を持って侵入した。刃物を片手に、1年教室前廊下を徘徊している。

5当日の動き

(1) 訓練のシナリオ

①授業中に、刃物を手に持った不審な人物が児童昇降口から入り、1年教室前を徘徊している。

②1年1組担任は、児童に次の指示を出してから廊下に出る。

「声を出さないで、そっと中庭から外に出て待っていなさい。」

「A君は、2組のB先生に中庭から声をかけて、廊下に来るように、そっと知らせてきなさい。」

「B君は、外から職員室に行って、教頭先生に『不審者ですよ。』と教えてください。」

③教頭先生は、直ちに110番通報する。

④1年1組担任は廊下に出て声をかける。大きな声でゆっくり話かける。

「こんにちは、天気がいいですね。」 ※不審者は何を言われても反応しない。

「どちら様でしょうか?今日は、どのような用件でこられたのでしょうか?」

「今は授業中ですので、教室の方はご遠慮願います。」

※どうしても入ろうとする場合は、近くの空き教室(音楽室、理科室などその時間使用していない教室やそれに相当する場所)に誘導する。

刺激しない。児童が避難する時間をかせぐ。警察がくるまでの時間をかせぐ。足止めをする。

⑤大声で対応している教師の様子に気づくか、あるいは、A児B児の連絡を受けた教員が、全校に連絡する。

⑥近くの教室の男性教員は1年教室前の廊下に向かう。その際、同じフロアにいる学年の児童は非常口から外に出て待つように、他の階の児童は、教室でそのまま待つよう指示する。

⑦職員室では、校長が警察へ通報、児童の避難、1年教室への対応を指示する。

⑧各教員はそれぞれ分担し、現場を迂回して児童を体育館に避難させる。

⑨体育館では児童に声をかけ安心させる。窓の近くや出入り口の近くに児童を置かない。

⑩男性教員は、児童を避難させた後、1年教室前廊下に行き、不審者に対応する。

①空き教室に誘導した後は、入り口にさりげなくバリケードを張り、警察の到着を待つ。

(不審者との距離を保ち、できるだけ時間をかせぐ。不審者が外に逃げた場合も、動きを見守り、状況に応じて職員室に連絡する。)

(2)講評

不審者対応の原則

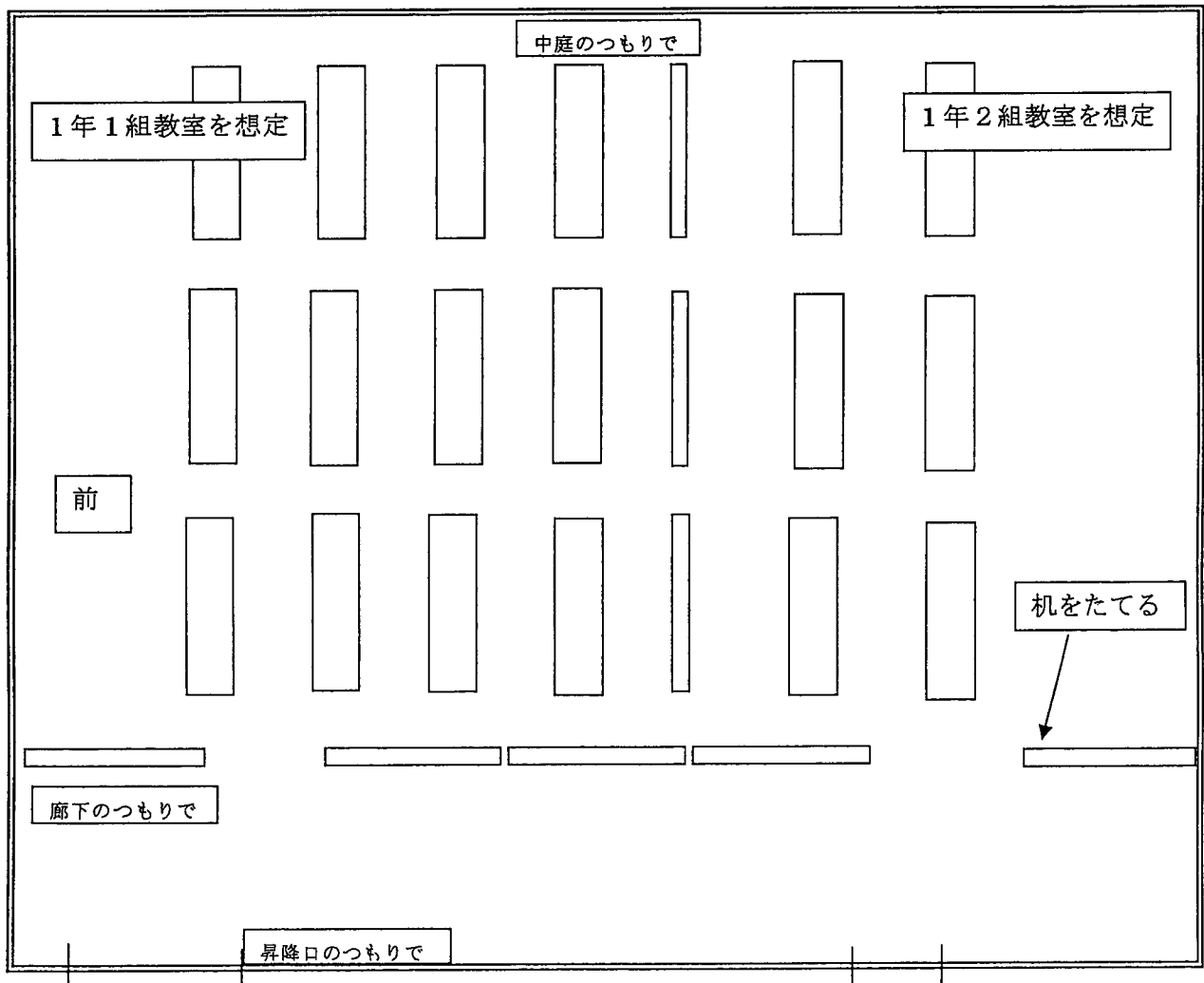
1. 不審者への対応の方針

- 学校に入れない。(児童から遠ざける)
- 不審者を刺激しない。
- 警察にできるだけ早く通報する。

2. 不審者との接し方

- 1人では対応しない。
- さりげなく物を手に持って対応する。(何かあった時にブロックしたり、相手に投げたり・・・)
- 相手の様子を観察し、不審者と必要な間合いを持つ。

6 会場図 (机椅子の移動と役割演技にご協力ください。)



巧みな誘いかけに要注意!

〇〇警察署

ここがポイント

子どもを狙う犯罪の手口として、子どもにいろいろな声をかけて、言葉巧みに誘いだすことがあります。

「なぜ、知らない人について行ってはいけないのか」をきちんと理解させることが大切です。(「誘拐や猥褻行為」「暴行・恐喝」などの犯罪に巻き込まれる)

- ★何と言われても、絶対についていかない。
- ★もし、知っている人でも、かならず「家の人に聞いてから」と言う。
- ★何と言っても、はっきりことわる。

例「イヤです」「いません」「知りません」

- ★そばに近よらない。何回も話しかけられたら、早くその人から離れる。
- ★連れて行かれそうになったら、大声で助けを呼ぶ・防犯ブザーなどを鳴らす・走って逃げる
- ★家に帰ったら、危なかった出来事を家の人に話す。

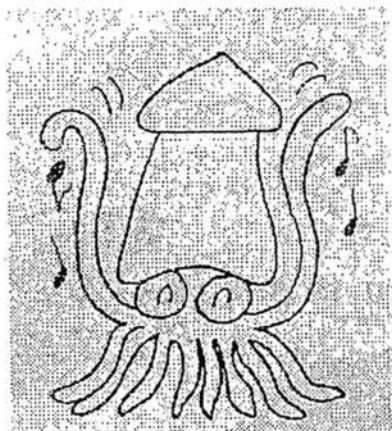
子どもと被害に遭わないための具体的な約束を決めておくこと

例「5つのやくそく」「イカのおすし」等

- ★知らない人に絶対についていかない
- ★登下校時は、出来るだけ友達と一緒に行動する。
- ★外で遊ぶときは、ひとりでは遊ばない。



- ◆ 知らない人にはついていきません
- ◆ だれかに連れて行かれそうになったら「たすけて」と大声で助けを呼びます。
- ◆ 一人では遊びません。
- ◆ 友達が知らない人に連れて行かれそうになったら大声で助けを呼びます。
- ◆ 遊びに行くときは、どこで・だれと遊ぶか家の人に言う前から出かけます。



「いかのおすし」のやくそく

- ◆いか 知らない人についていかない
- ◆の 知らない人の車にのらない
- ◆お 危険な時には、おおきな声を出す
- ◆す すぐに逃げる
- ◆し おとなにしらせる

ふだんから、誘われたときの断り方、逃げ方等を練習しておく

- ★知らない人から「お菓子をあげるからおいで」「迷子のネコを一緒に探して」などと言われたらどうする？等、いろいろなシチュエーションで具体的に、子どもに考えさせながら一緒に考える。
- ★周囲の注意をひくように、大きな声で「助けて」「キャー」「さわらないで」と叫ぶ。また大声で泣く。
- ★人がいる方へ走って逃げる、すぐ近くのお店や家、こども110番連絡所に逃げ込む。

危険なめに遭わないために、「我が家の約束」を見やすいところに貼っておく

- ★安全のために約束したことを、簡単な言葉で紙に書くなどして玄関などの見やすい場所に貼っておくのも効果的。

普段から、何でも話せる関係が大切

- ★危険な目にあっても「叱られる」と親に黙っている子もいます。普段から何でも話し合える関係をつくっておく。

不審者の情報は、必ず警察や学校に通報を

- ★みんなで地域の安全を守るためにも、不審者情報はすばやく連絡をする。

子どもが被害者になる犯罪のケースと対応策

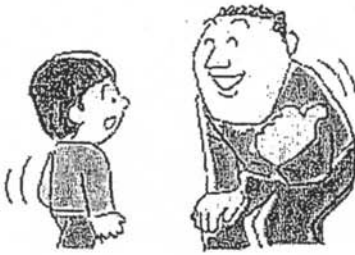
路上で...

事 例

対 応 策

- ◆ 「ゲームをしよう」「探し物を見つけて」「困っているから助けて」「好きな物を買ってあげるから」など、言葉巧みに話しかけ、どこかへ連れ去る。

- ◆ 日頃から知らない人にはついていかない、知っている人でも「家の人に聞いてから」と言うようにさせる。
- ◆ 名前入りの学校用具を持っていると、「〇〇ちゃん」と声をかけられて、思わず反応してしまうことも…。氏名入りのものは登下校時には外から見えないようにさせる。



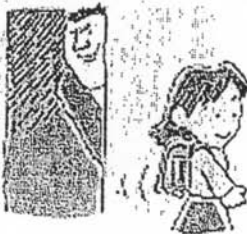
- ◆ 車から声をかけて、近づいた瞬間にドアを開けて車内に引っ張り込む。

- ◆ 車から声をかけられたら、両手を広げた幅以上の距離まで、車から離れるようにさせる。



- ◆ 路地や死角に連れていかれ、暴行や恐喝を受ける。

- ◆ 普段から親子で危険箇所のチェックをし、危険な場所には行かせない。
- ◆ 連れていかれそうになった時点で、大声で助けを呼ぶようにさせる。

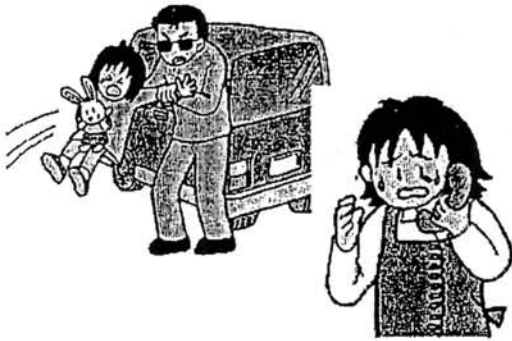


不審者情報 110番通報マニュアル

山形県警察では、県民の安全安心を守るために、24時間体制で110番通報を受けています。特に、少年・少女が被害にあっている通り魔事件については、犯人の早期検挙のため、皆さんから一秒でも早い110番をお願いいたします。

110番通報は、携帯電話でも「110」を押すだけです。

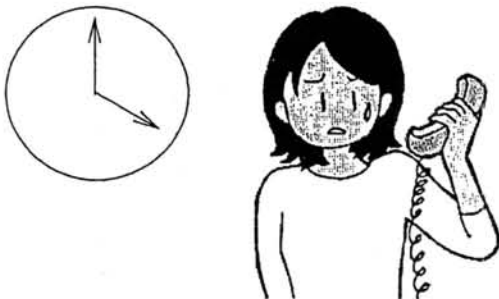
1 何があったか。



2 どこであったか。
(「〇町△番地」や目立つ建物など)



3 いつあったか。



4 犯人は。



5 今、どうなっているか。



6 あなたの住所・名前・電話番号

〇〇町△丁目
〇〇〇です。



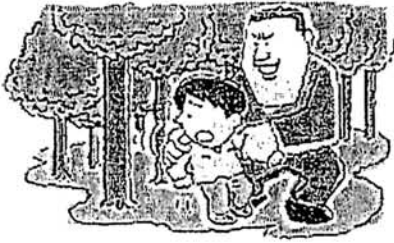
不審者情報は、迷わず、見たまま、聞いたまますぐ110番通報して下さい。皆さんのご協力が、犯人検挙の有力な手がかりになっています。

〇 〇 警 察 署

公園で...

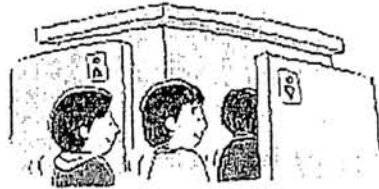
事例

◆ 樹木の陰やトイレなどに連れ込まれる。



対応策

- ◆ 公園での一人遊びはさせない。
- ◆ 友だちと離れて遊ばないようにさせる。
- ◆ トイレに行く時は、友だちについて来てもらうようにさせる。



駐輪場・駐車場で...

事例

- ◆ 自転車を置こうとした時、いきなり後ろから抱きつかれる。
- ◆ 駐車している車の近くを歩いていたら、急にドアが開いて中に引っ張り込まれる。



対応策

- ◆ 自転車を置く前に周囲を見まわすようにさせる。
- ◆ 駐輪場では遊ばせない。
- ◆ 万が一の場合は、大声を出して助けを呼ぶようにさせる。
- ※ 集合住宅の場合は、駐輪場・駐車場を明るくする、死角を作らないなどといった、安全な環境作りの配慮も必要です。



階段・踊り場・屋上で...

事例

◆ 階段・踊り場・屋上で遊んでいたところ、手を引っ張られ物陰に連れていかれた。



対応策

- ◆ 階段や踊り場・屋上では一人で遊ばないようにさせる。
- ◆ 手を引かれたら、大きな声で助けを呼ぶようにさせる。



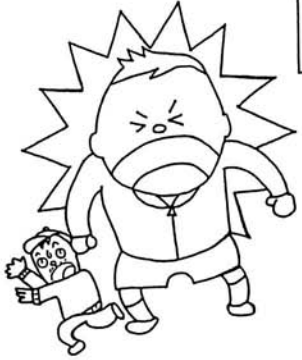
○ ○ 警察署

イカ



いかない

お



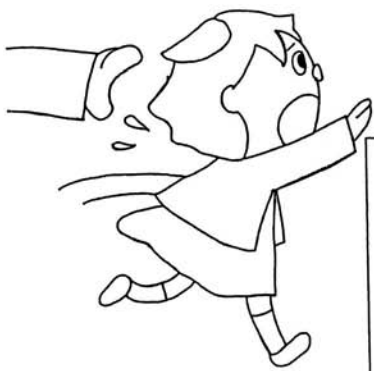
おまじないで
おまじない

の



のらない

す



す
ぐ
に
げ
る

し



し
ら
せ
る